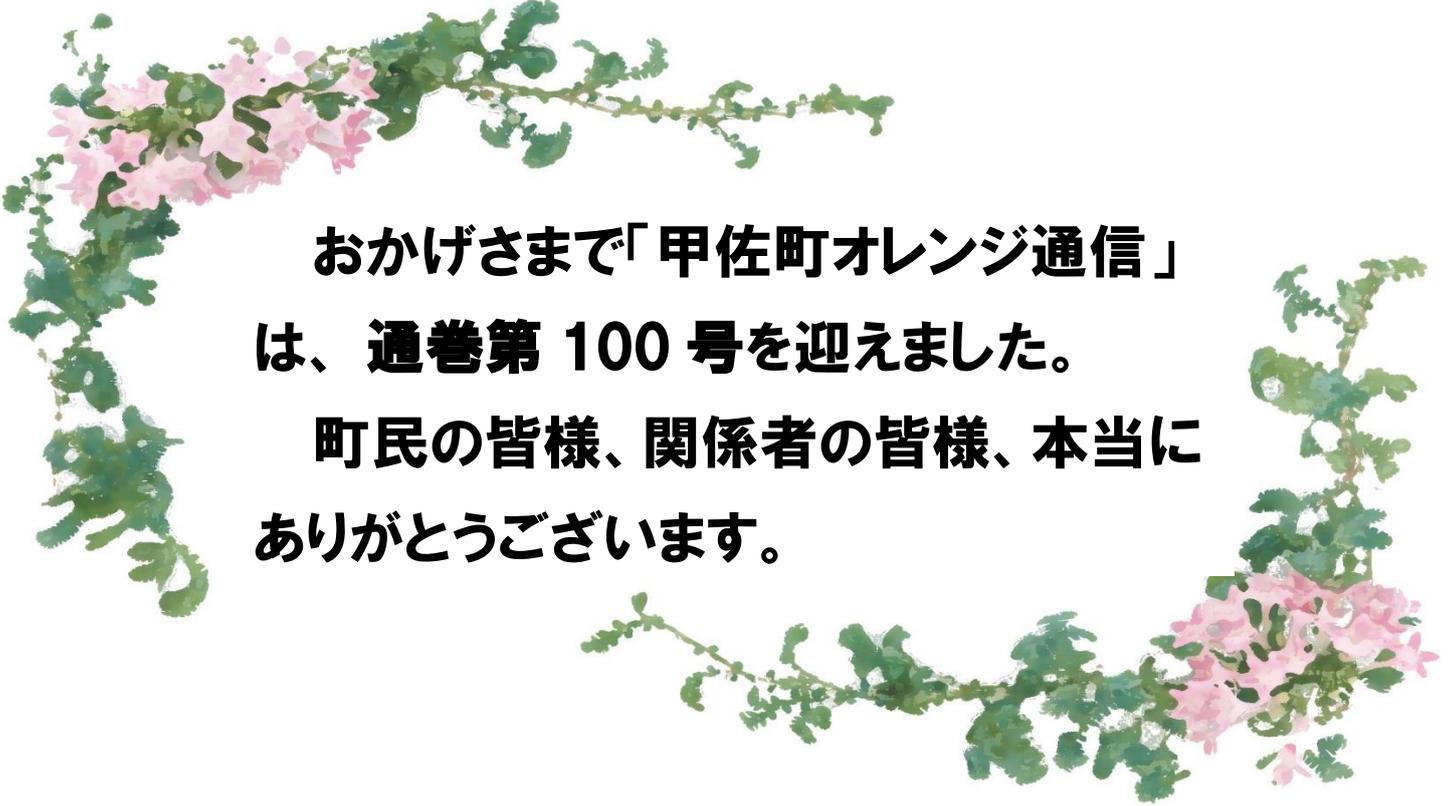


甲佐町オレンジ通信

令和7年3月 甲佐町地域包括支援センター

第10号(通巻第100号)



おかげさまで「甲佐町オレンジ通信」
は、通巻第100号を迎えました。

町民の皆様、関係者の皆様、本当に
ありがとうございます。

認知症の方の意思決定支援とは

以前、人生会議についてご説明した時がありました。ご自身が、一人になった時、病気になった時、認知症が進行した時など、想定して少し先の人生を考えてみます。そして、「その時、どこでどのように自分らしく生きていくのか？」を家族や支援者と語り合う会議です。

先日、グループホームで、102歳の認知症の方の最後の支援を行いました。血圧が下がり朦朧とする中、その方は手を挙げて

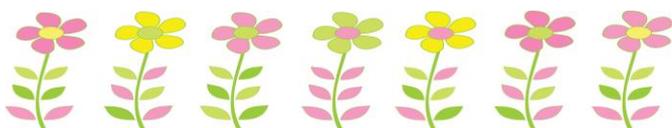
何かを掴もうとする仕草が見られます。遠方に住む息子さんが訪室し「お母さん！」と声をかけた瞬間、涙が一粒ほろりと流れて、安心したように手を下ろされました。何度か見たことのある風景です。息子がちゃんとわかるのです。

現在、看取りの場所も多様で、病院のみならず、介護施設やご自宅などに主治医も往診してくださいます。その方が望む最後のお手伝いをするためです。「認知症だからできない、わからない」と判断するのではなく、本人の意向と今までの暮らし方や考え方などを理解し、それを尊重することが大切です。自宅を希望されたら、まず、一度は検討してみるべきです。在宅を支えるサービスが甲佐町は充実しているからです。

しかし、ご家族の中には、親のために仕事もできず、介護の毎日で「このまま経済的に生きていけないのではないか」と不安を抱える方があるかもしれません。どうか、どうか、自暴自棄にならないで、身近な民生委員さんや町の地域包括支援センターなどに、必ずご相談ください。認知症の人とその家族を支えることが国が進める認知症基本法にある地域共生の考え方なのです。

親の最期には何にも代えられない贈り物があります。しっかり、その目でその心で見つめてみてください。甲佐町は、あなたが望みさえすれば「一人ぼっちにはしない」素敵な福祉の町なのです。

甲佐町地域包括支援センターでは、6月から月に1回、全10回にわたって認知症に関する情報「甲佐町オレンジ通信」を発行しています。



お問い合わせ先
甲佐町地域包括支援センター
(甲佐町役場 福祉課) TEL 234-1114